

3  
#4511  
聖徒伝 87

# 「主権は常に 神にある」

I サムエル記5～7章 奪われた契約の箱の足取り

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 打たれた偶像神 5章
- II. 送り返された契約の箱 6章
- III. サムエルの裁き 7章
- IV. まとめと適用

全知全能の主に信頼しよう



【無垢の時代】  
天地創造

【良心の時代】  
墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】  
バベルの塔事件

【約束の時代】  
アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】  
イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】  
聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】  
千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

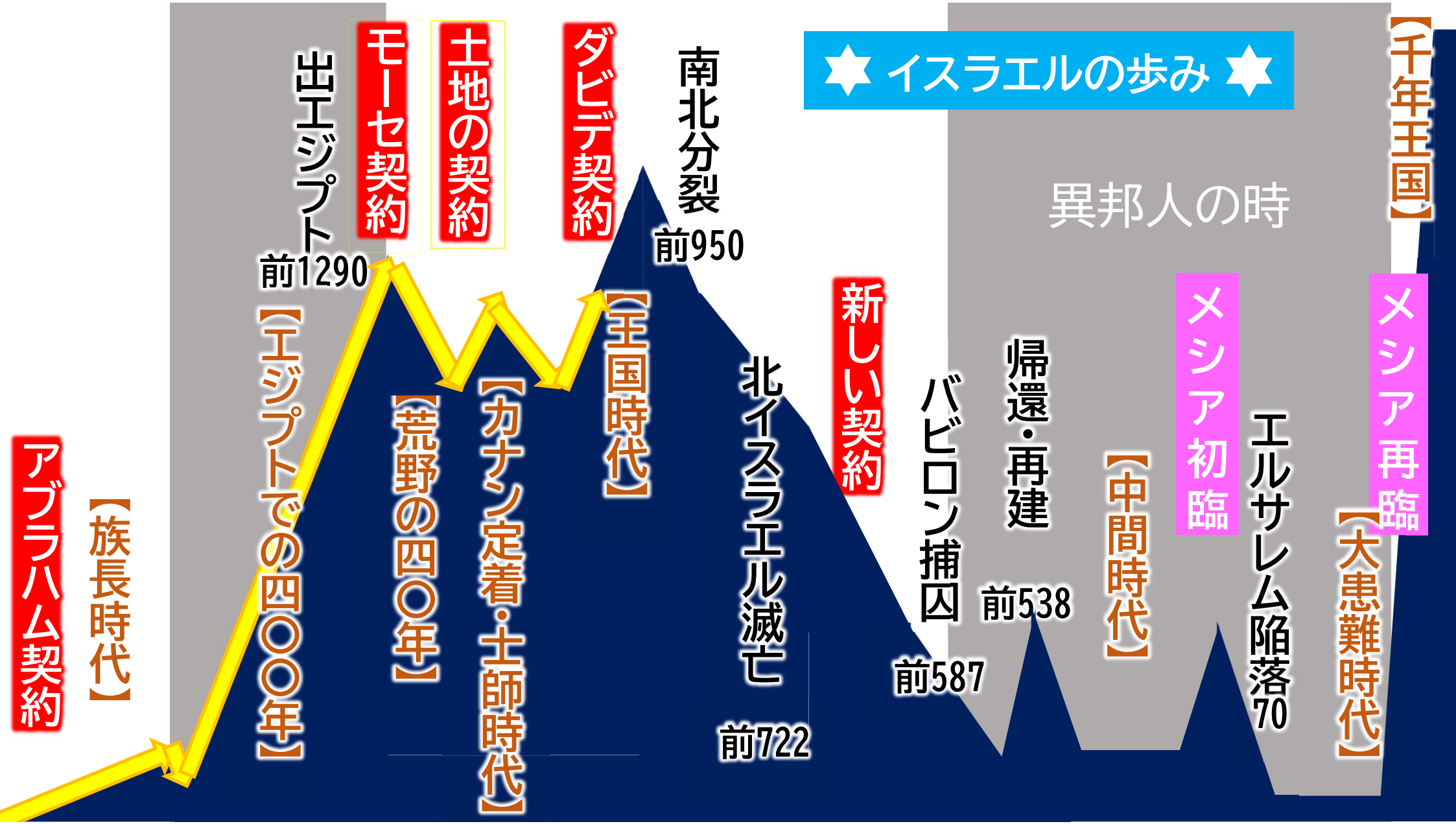
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

エジプト

前1290

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

土地の契約

ダビデ契約

【王国時代】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

エルサレム陥落70

メシア初臨

【大患難時代】

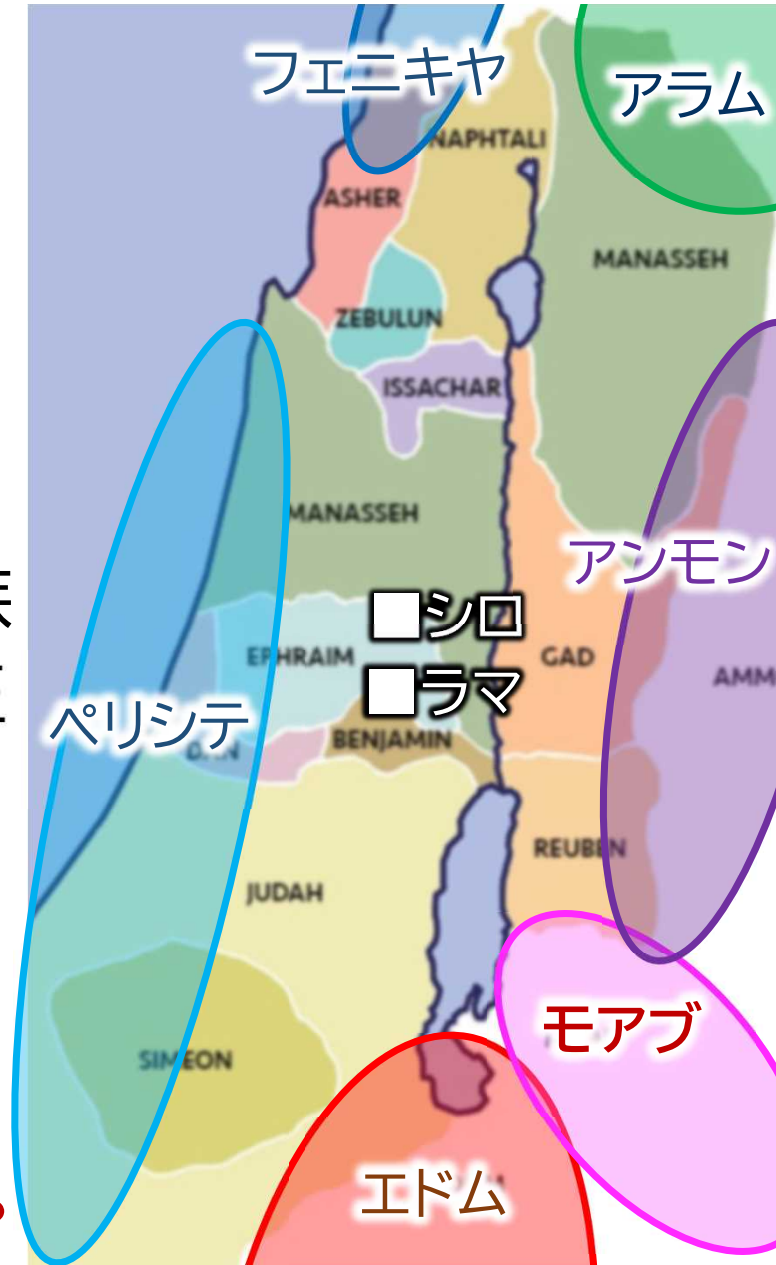
メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

## 【最後の士師サムエル】

- 約束の地で相続地を手に入れたイスラエル。しかし、未征服の地も多く残り、カナン人の偶像礼拝が、たびたび悪影響をもたらした。
- 混沌の時代に主が立てた士師たちは、一部族のリーダーに過ぎず、全イスラエルを治める王は、まだいなかった。
- ついに誕生するイスラエルの王。その準備をしたのが、最後の士師とも言われるサムエル。  
➔サムエルが治めたのはイスラエルの核心部。



## 【サムエルのプロフィール】

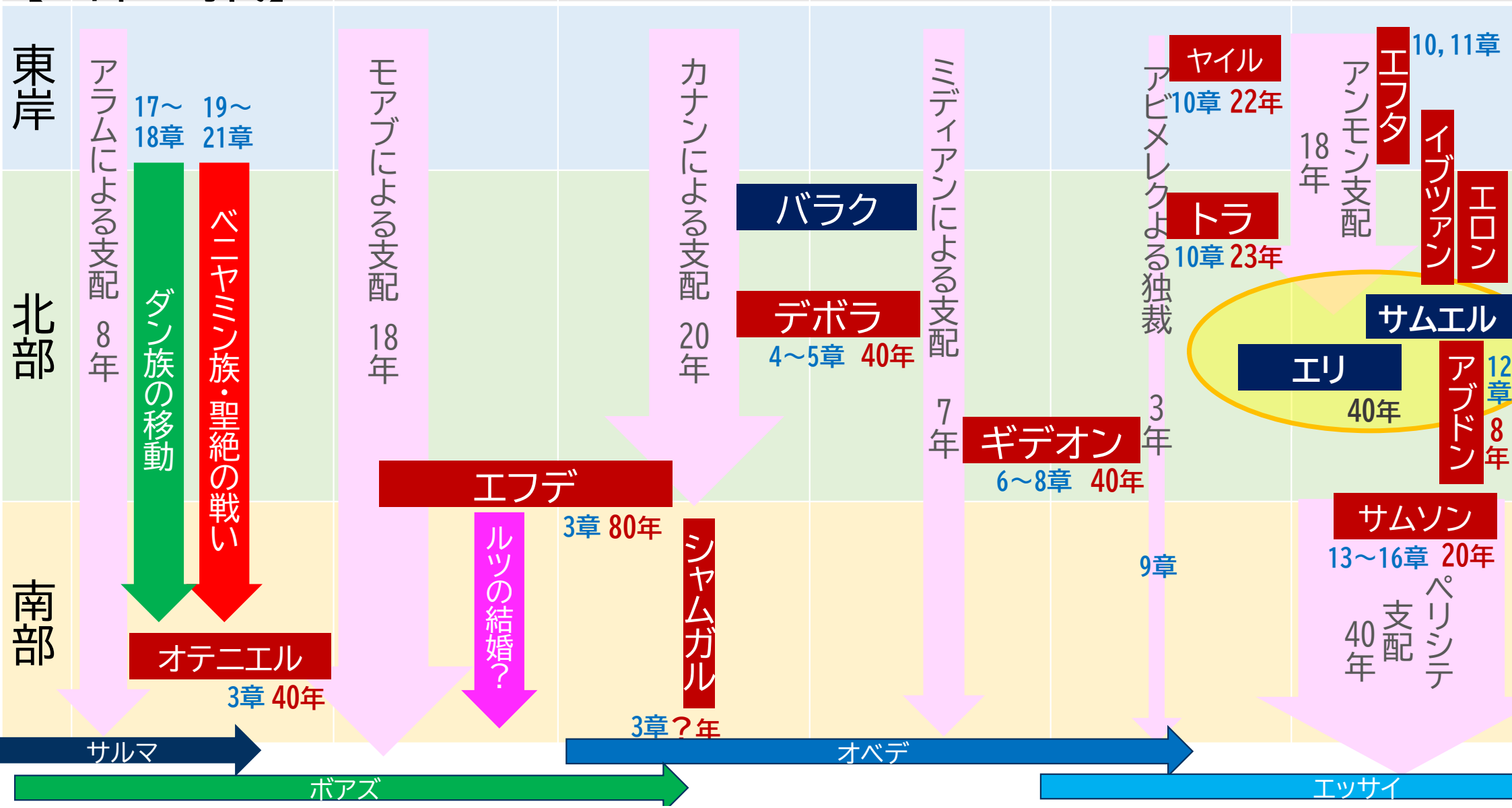
- レビ人ケハテ族 …幕屋の祭具(契約の箱)を運搬。  
➔幕屋の奉仕者であって、祭司の一族ではない。
- この時代には**予見者**と呼ばれた。  
最後の**士師**。**預言者**。
- 士師時代と王国時代をつなぎ、  
イスラエルに王が誕生する前の**道ぞなえ**をした。
- 最初の王サウル。真の王**ダビデ**に油を注いだ。



# 【士師の時代】

BC1200

BC1100



サムエル記 第一

士師時代

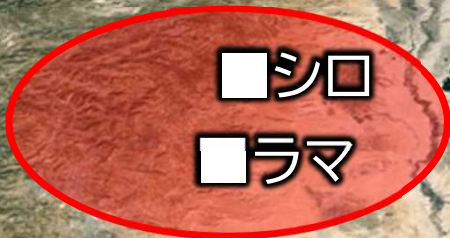
サムエル	1:1~2:11	サムエルの誕生
サムエル	2:12~3:21	サムエルの召命
サムエル	4:1~7:17	奪われた契約の箱
サムエル	8:1~9:27	後継者不在 王を求める民

王政時代

サウル	10:11~11:15	油注ぎ
サウル	12:1~25	士師サムエルの民への告別
サウル	13:1~15:35	王が重ねた神への背き
ダビデ	16:1~13	油注ぎ
ダビデ	16:14~23	王宮での奉仕
ダビデ	17:1~58	ゴリヤテとの戦い
ダビデ	18:1~30	サウルの娘ミカルとの結婚
ダビデ	19:1~26:25	荒野の逃亡の日々
ダビデ	27:1~30:31	ペリシテ人の地で
ダビデ	31:1~13	サウルの死







■シロ

■ラマ

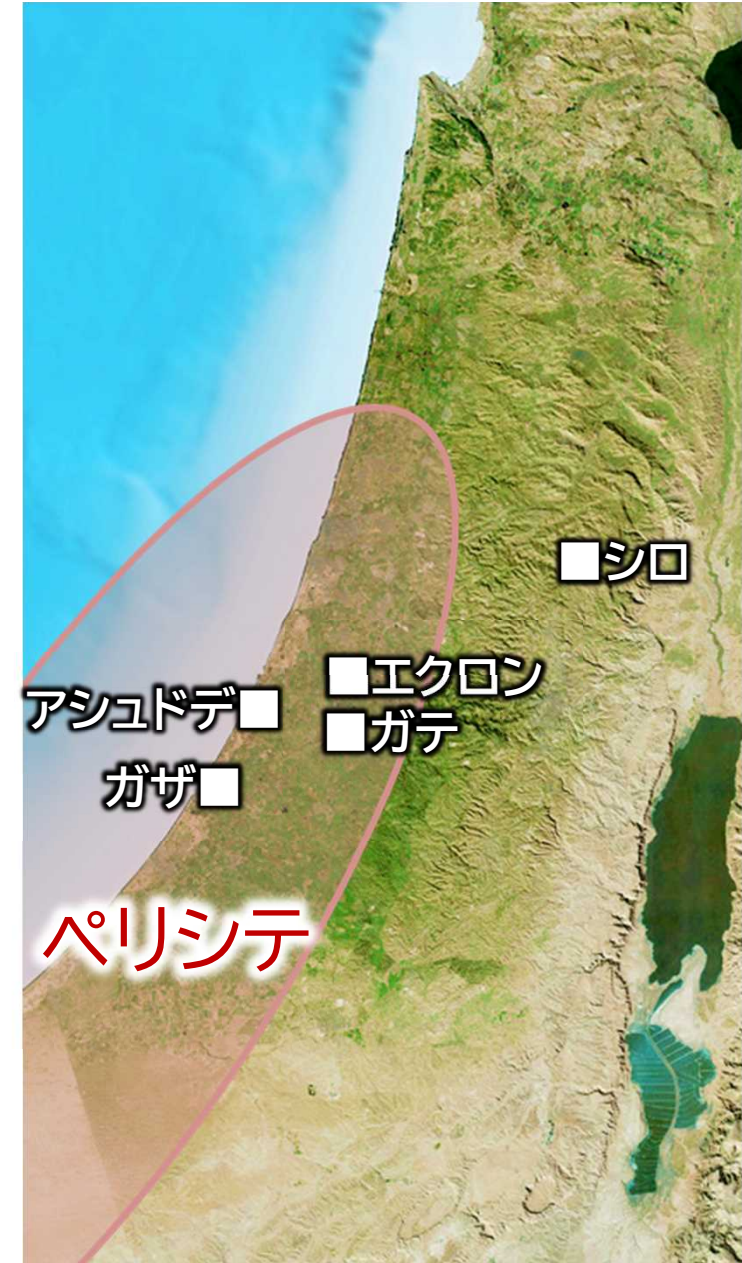
■エルサレム

士師サムエルの活動範囲

ペリシテ

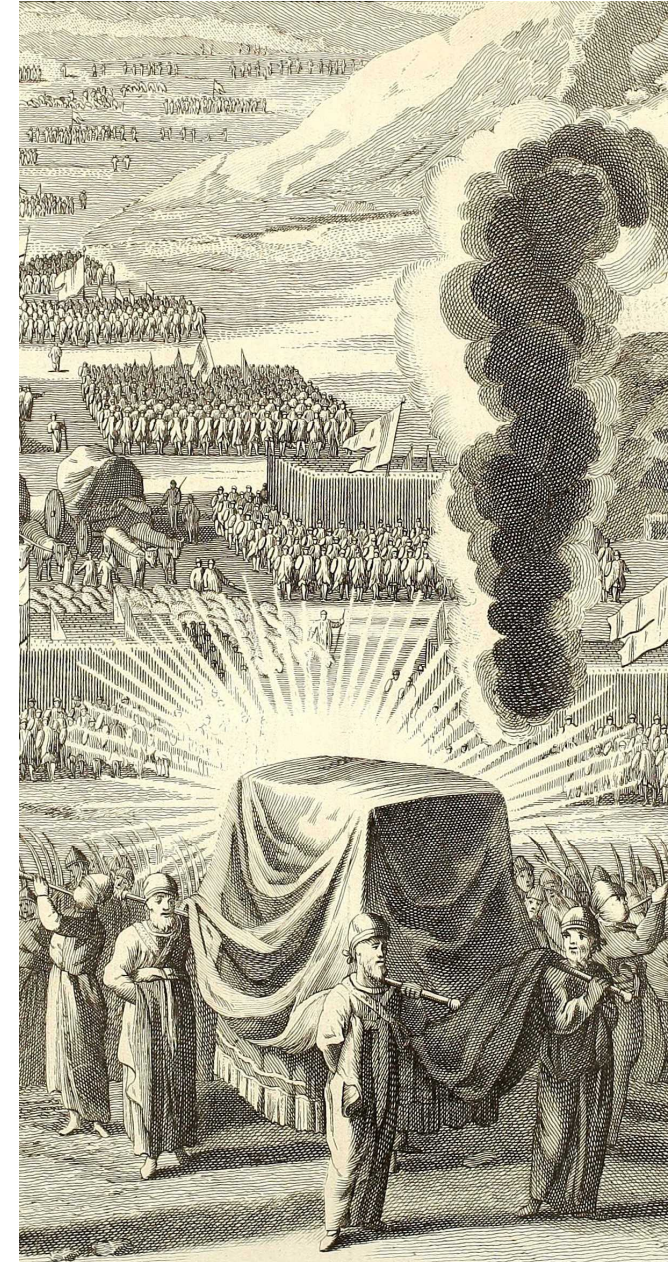
## 【ペリシテ人とは？】

- ノア➡ハム➡ミツライムの子孫(創10:14)
- イスラエル南西の海沿いに勢力を持つ。  
アブラハム、イサクとのトラブルも。
- 出エジプト後、イスラエルが恐れて引き返さないよう、神は、ペリシテの地を迂回させた。
- 士師の時代にも強敵。サムソンが対決。
- 鉄器の扱いに優れ、優れた文明を誇った。



## 【奪われた契約の箱】 I サムエル4章

- ペリシテ軍に手痛い敗北を喫したイスラエルは、神頼みで戦場に契約の箱を運び込んだ。
- 奮起したペリシテ軍により、イスラエルは大敗。不信仰な祭司ホフニとピネハスも死んだ。
- イスラエルの敗北と二人の息子の死が、エリに告げられた。神の箱が奪われたという最悪の知らせを聞いて、エリは倒れて死んだ。
- 神の箱と共に、神の栄光がイスラエルを去った。





# I. 打たれた偶像神

# I サムエル記5章

アシュドデ近くの海岸

## 【アシュドデの町で】 I サムエル5:1~3

ペリシテ人は神の箱を奪って、エベン・エゼルからアシュドデまで運んで来た。

それからペリシテ人は神の箱を取り、**ダゴン\***の神殿に運んで来て、**ダゴン**の傍らに置いた。

アシュドデの人たちが、翌日、朝早く起きて見ると、なんと、**ダゴン**は【主】の箱の前に、地にうつぶせになって倒れていた。そこで彼らは**ダゴン**を取り、元の場所に戻した。

\*バアル神の父、半人半獣の海洋神とも言われる。  
バアル礼拝以前にカナンで盛んだった偶像。



## 【】 I サムエル

5:9 それがガテに移された後、【主】の手はこの町に降り、非常に大きな恐慌を引き起こし、この町の人々を打つた。上の者も下の者もみな打ったので、彼らに腫物ができ

5:10 ガテの人たちは神の箱をエクロンに送った。神の箱がエクロンにやって来たとき、エクロンの人たちは大声で叫んで言った。「私と私の民を殺すために、イスラエルの神の箱をこっちに回して来たのだ。」

5:11 それで彼らは人を遣わして、パリシテ人の領主アシュドデに全員集め、「イスラエルの神の箱を送って、元の場所に戻っていただきましょう。私と私の民を殺すことがないように」と言った。町中に死の恐慌があったのである。神の手は、そこに非常に重くのしかかっていた。

5:12 死ななかつた者は腫物で打たれ、助けを求め、その叫び声は天にまで上った。



## 【打たれた偶像】 I サムエル5:4～5

次の日、朝早く彼らが起きて見ると、やはり、ダゴンは【主】の箱の前に、地にうつぶせになって倒れていた。ダゴンの頭と両手は切り離されて敷居のところであり、胴体だけがそこに残っていた。それで今日に至るまで、ダゴンの祭司たちやダゴンの神殿に入る者はみな、アシュドデにある**ダゴンの敷居を踏まない\***。

**\* 新たな迷信が生まれた？ 人々の衝撃。**



## 【移された神の箱】 I サムエル5:6~8

【主】の手はアシュドデの人たちの上に重くのしかかり、アシュドデとその地域の人たちを腫物で打って脅かした。

アシュドデの人たちは、この有様を見て言った。「イスラエルの神の箱は、われわれのもとにとどまってはならない。その手は、われわれとわれわれの神ダゴンの上に厳しいも\*のであるから。」それで彼らは人を遣わして、ペリシテ人の領主を全員そこに集め、「イスラエルの神の箱をどうしたらよいでしょうか」と言った。領主たちは「イスラエルの神の箱は、ガテに移るようにせよ」と言った。そこで彼らはイスラエルの神の箱を移した。

\*個々の町に偶像が。どの町の神なら対応可能か？





## 【誰も逃れられない神の御手】 I サムエル5:9～12

それが**ガテ**に移された後、**【主】の手**はこの町に下り、非常に大きな恐慌を引き起こし、この町の人々を上のも下の者もみな打ったので、彼らに腫物ができた。

ガテの人たちは神の箱を**エクロン**に送った。神の箱がエクロンにやって来たとき、エクロンの人たちは大声で叫んで言った。「私と私の民を殺すために、イスラエルの神の箱をこっちに回して来たのだ。」

それで彼らは人を遣わして、ペリシテ人の領主を全員集め、「イスラエルの神の箱を送って、元の場所に戻っていただきましょう。私と私の民を殺すことがないように」と言った。町中に死の恐慌があったのである。**神の手**は、そこに非常に重くのしかかっていた。死ななかった者は腫物で打たれ、助けを求める町の叫び声は天にまで上った。





Ⅱ. 送り返された契約の箱

I サムエル記6章

ペリシテの平原

## 【ペリシテ人たちの協議】 I サムエル6:1~3

【主】の箱は七か月間ペリシテ人の地にあった。

ペリシテ人は祭司たちと占い師たちを呼び寄せて言った。  
「【主】の箱をどうしたらよいでしょうか。どのようにして、それを元の場所に送り返せるか、教えてください。」

彼らは答えた。「イスラエルの神の箱を送り返すのなら、何もつけないで送り返してはなりません。神に対して償いをしなければなりません。そうすれば、あなたがたは癒やされるでしょう。また、なぜ、神の手があなたがたから去らないかが分かるでしょう。」



## 【頭を絞る偶像礼拝者たち】 I サムエル6:4~5

人々は言った。「私たちが送るべき償いのものは何ですか。」彼らは言った。「ペリシテ人の領主の数に合わせて、五つの金の腫物、つまり五つの金のねずみ\*です。彼ら全員、つまりあなたがたの領主たちに、同じわざわいが下ったのですから。

あなたがたの腫物の像、つまり、この地を破滅させようとしているねずみの像を造り、それらをイスラエルの神に貢ぎとして献げなさい。もしかしたら\*神は、あなたがたと、あなたがたの神々、そしてあなたがたの地の上のしかかっている、その手を軽くされるかもしれません。

\*ねずみを媒介とする感染症？ \*確信はない!!



発想は一緒!!  
偶像礼拝の本質

## 【ペリシテ人の主への恐れ】 I サムエル6:6~7

なぜ、あなたがたは、エジプト人とファラオが心を硬くしたように、心を硬くするのですか。\* 神が彼らに対して力を働かせたときに、彼らはイスラエルを去らせ、イスラエルは出て行ったではありませんか。

今、一台の新しい車を用意し、くびきを付けたことのない、乳を飲ませている雌牛を二頭取り\*、雌牛を車につなぎ、その子牛は引き離して小屋に戻しなさい。

\*少なくともペリシテ人は主を恐れ、自分たちの神々の敗北を認めた。

\*この捧げものは、主のみ心になっただろう。

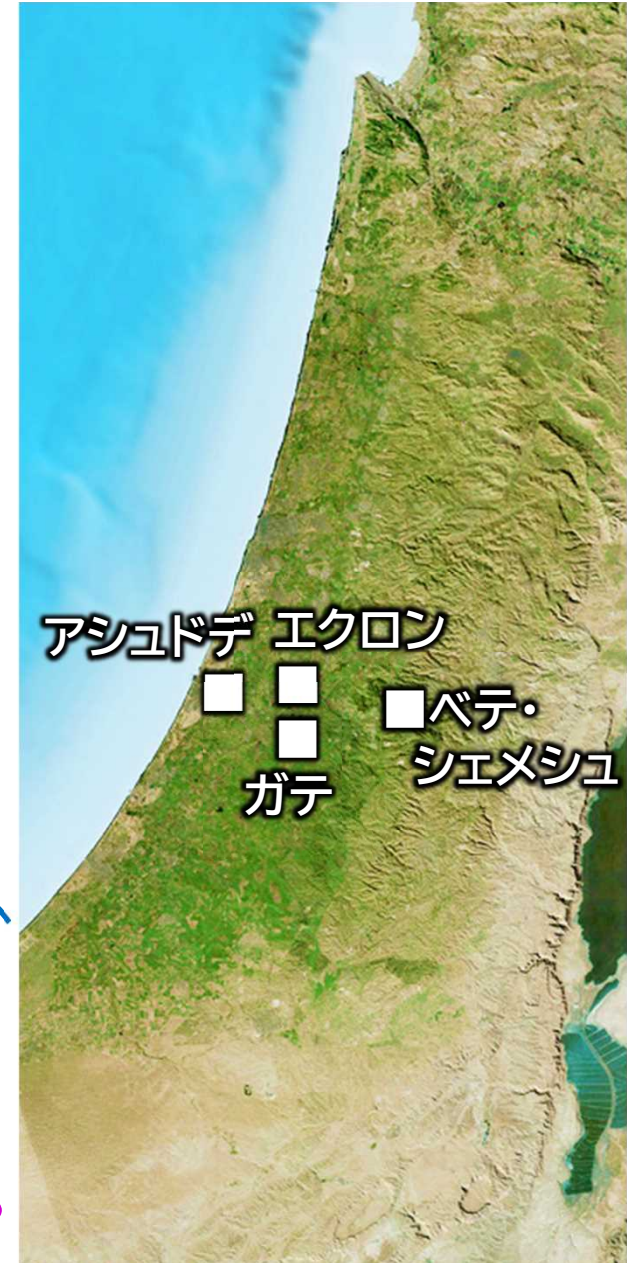


## 【ペリシテの呪術師の提案】 I サムエル6:8~9

また、【主】の箱を取って車に載せなさい。償いとして返す金の品物を鞍袋に入れて、そのそばに置きなさい。そして、それが行くがままに、去らせなければなりません。

注意して見ていなさい。その箱がその国境への道を**ベテ・シエメシュ\***に上って行くなれば、私たちにこの大きなわざわいを起こしたのはあの神です。もし行かないなら、神の手が私たちを打ったのではなく、私たちに偶然起こったことだと分かります。」

\*ユダの相続地内にある祭司の町(ヨシュア21:16)。



## 【立ち去る神の箱】 I サムエル6:10~12

人々はそのようにした。彼らは乳を飲ませている雌牛を二頭取り、それを車につないだ。子牛は小屋に閉じ込めた。そして【主】の箱を車に載せ、また金のねずみ、すなわち腫物の像を入れた鞍袋を載せた。

雌牛は、ベテ・シエメシュへの道、一本の大路をまっすぐに進んだ。鳴きながら進み続け、右にも左にもそれなかった。ペリシテ人の領主たちは、ベテ・シエメシュの国境まで、その後について行った。



## 【神の箱の帰還】 I サムエル6:13~16

ベテ・シエメシュの人たちは、谷間で小麦の刈り入れをしていたが、目を上げると、神の箱が見えた。彼らはそれを見て喜んだ。

車はベテ・シエメシュ人ヨシュアの畑に来て、そこにとどまった。そこには大きな石があった。人々は、車の木を割り、雌牛を全焼のささげ物として【主】に献げた。

レビ人たちは、【主】の箱と、そばにあった金の品物の入っている鞍袋を降ろし、その大きな石の上に置いた。その日、ベテ・シエメシュの人たちは全焼のささげ物を献げ、いけにえを【主】に献げた。

ペリシテ人の五人の領主は、これを見て、その日エクロンに帰った。





## 【人々に記憶されて】 I サムエル6:17~18

ペリシテ人が償いとして【主】に返した金の腫物は、アシュドデのために一つ、ガザのために一つ、アシュケロンのために一つ、ガテのために一つ、エクロンのために一つであった。

すなわち、金のねずみは、五人の領主に属するペリシテ人の町の総数によっていた。それは、砦の町と城壁のない村の両方を含んでいる。彼らが【主】の箱を置いたアベルの大きな台は、今日までベテ・シエメシュ人ヨシュアの畑にある。

- 神の箱を巡る出来事は、ペリシテとイスラエル双方に、主への恐れを抱かせた。



## 【おろかな祭司たち】 I サムエル6:19~21

主はベテ・シエメシュの人たちを打たれた。【主】の箱の中を見たからである。主は、民のうち七十人を、すなわち、千人に五人を打たれた。【主】が民を激しく打たれたので、民は喪に服した。

ベテ・シエメシュの人たちは言った。「だれが、この聖なる神、【主】の前に立つことができるだろう。私たちのところから、だれのところに上って行くのだろうか。」

彼らはキルヤテ・エアリムの住民に使者を遣わして言った。「ペリシテ人が【主】の箱を返してよこしました。下って来て、あなたがたのところに運び上げてください。」

■ 祭司なのに、契約の箱の取り扱いを知らない!?

問われる民の不信仰



軽薄・不遜

無知・蒙昧



## Ⅲ. サムエルの裁き I サムエル記7章

アシュドデ上空から

## 【とどまった神の箱】 I サムエル7:1~2

キルヤテ・エアリム\*の人々は来て、【主】の箱を運び上げ、丘の上のアビナダブの家に運んだ。そして、【主】の箱を守るために彼の息子エルアザルを聖別した。

箱がキルヤテ・エアリムにとどまった日から長い年月がたって、二十年になった\*。イスラエルの全家は【主】を慕い求めていた。

\*ユダの相続地にある要衝の町。

➡ダビデの時まで神の箱が置かれた( I 歴13:5)

\*神の箱強奪以来のイスラエルの長い停滞。

➡イスラエルの民の悔い改めを促す神の沈黙の期間。



## 【悔い改めと信仰の回復】 I サムエル7:3~4

サムエルはイスラエルの全家に言った。

「もしあなたがたが、心のすべてをもって【主】に立ち返るなら、あなたがたの間から異国の神々やアシュタロテを取り除きなさい。そして心を【主】に向け、主のみ仕えなさい。そうすれば、主はあなたがたをペリシテ人の手から救い出してくださいます。」

イスラエル人は、バアルやアシュタロテの神々を取り除き、【主】にのみ仕えた。

- 二つの促し … ①主に立ち返り、偶像を取り除く。  
②心を主に向け、主のみ仕える。

建国以来の民族的回心



## 【民の悔い改め・士師の裁き】 I サムエル7:5～6

サムエルは言った。「全イスラエルを、ミツパ\*に集めなさい。私はあなたがたのために【主】に祈ります。」

彼らはミツパに集まり、水を汲んで【主】の前に注ぎ、その日は断食した。彼らはそこで、「私たちは【主】の前に罪ある者です」\*と言った。こうしてサムエルはミツパでイスラエル人をさばいた。

\*ミツパ …ベニヤミンの相続地の北部の町。

\*主の前に、罪の告白がなされた。民族的回心。

■イスラエルの民の悔い改めを経て、サムエルが士師に立てられた。



## 【サムエルの指示】 I サムエル7:7~8

イスラエル人がミツパに集まったことをペリシテ人が聞いたとき、ペリシテ人の領主たちはイスラエルに向かって上って来た。イスラエル人はこれを聞いて、ペリシテ人を恐れた。

イスラエル人はサムエルに言った。「私たちから離れて黙っていないでください。私たちの神、【主】に叫ぶのをやめないでください。主が私たちをペリシテ人の手から救ってくださるようにと。」

\*ペリシテを恐れ、押し黙ってしまったイスラエル。

■主に叫ぶのをやめるな、という支持の本質は、主に心を向け続けろということ。



## 【ペリシテとの戦い】 I サムエル7:9~11

サムエルは、乳離れしていない子羊一匹を取り、焼き尽くす全焼のささげ物として【主】に献げた。サムエルはイスラエルのために【主】に叫んだ。すると【主】は彼に答えられた。

サムエルが全焼のささげ物を献げていたとき、ペリシテ人がイスラエルと戦おうとして近づいて来た。しかし【主】は、その日ペリシテ人の上に大きな雷鳴をとどろかせ、彼らをかき乱したので、彼らはイスラエルに打ち負かされた。

イスラエルの人々は、ミツパから出てペリシテ人を追い、彼らを討ってベテ・カルの下にまで行った。





## 【イスラエルの平和】 I サムエル7:12~14

サムエルは一つの石を取り、ミツパとエシェンの間に置き、それにエベン・エゼルという名をつけ、「ここまで【主】が私たちを助けてくださった」と言った。

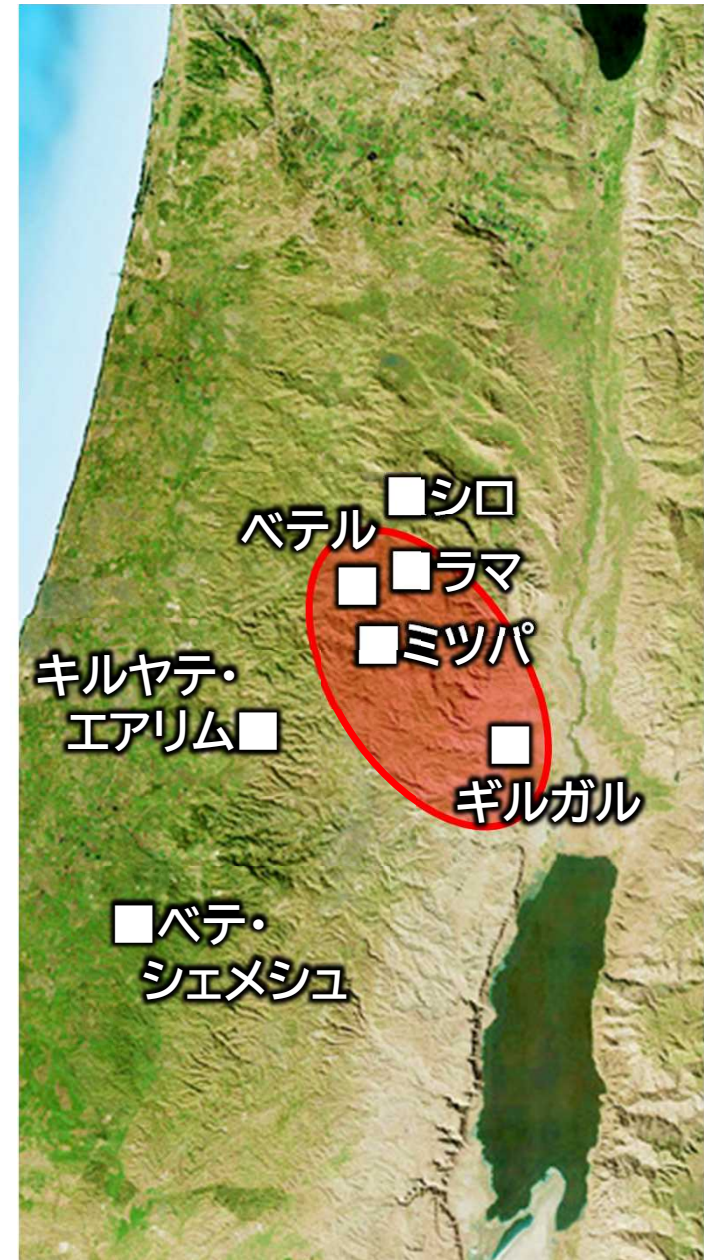
ペリシテ人は征服され、二度とイスラエルの領土に入って来なかった。サムエルの時代を通して、【主】の手がペリシテ人の上にのしかかっていた。

ペリシテ人がイスラエルから奪い取っていた町々は、エクロンからガテまでが、イスラエルに戻った。イスラエルはペリシテ人の手から、その領土を解放した。そのころ、イスラエルとアモリ人の間には平和があった。



【士師サムエルの統治】 I サムエル7:15～17  
サムエルは、一生の間、イスラエルをさばいた。  
彼は年ごとに、ベテル、ギルガル、ミツパを巡  
回し、これらすべての聖所でイスラエルをさばき、  
ラマに帰った。そこに自分の家があり、そこで  
イスラエルをさばいていたからである。彼はそこ  
に【主】のために祭壇を築いた。

■サムエルが士師として裁いた40年間。  
イスラエルは、主に仕え、平和を保たれた。





## IV. まとめと適用

全知全能の主に信頼しよう

西部の平野

## 【サムエルがイスラエルに促し、行ったこと】

「Ⅰサムエル7:5 もしあなたがたが、心のすべてをもって【主】に立ち返るなら、あなたがたの間から異国の神々やアシュタロテを取り除きなさい。そして心を【主】に向け、主にのみ仕えなさい。」

- 祭司が打たれ、神の箱が奪われ、主の栄光が去る。建国以来の衝撃。
- サムエルは、イスラエルに**悔い改め**を促し、偶像を取り去った。
- **民族的回心**を果たしたイスラエルが、**ただ主に心を向けた結果**、サムエルの下、イスラエルは平和を味わうことができた。

## 【主権は常に主にある】

- 神の箱を奪ったペリシテ人は、主に翻弄され、裁かれ、主を恐れた。  
箱を引き渡したのも、帰還させたのも、**すべて主の御手の業。**
- 主の栄光が去り絶望したイスラエルだが、主は見捨てていなかった。  
**主ご自身の力**によって、主の栄光はイスラエルに戻られた。
- イスラエルを常に導くのは、常に、主の**一方的な恵みの約束。**
- 神の栄光の喪失と回復の出来事は、**すべてが主の主権による**ことをイスラエルに思い知らせたことだろう。

## 【どんな状況の中でも、覚えるべきは全知全能の主】

- 災いさえも、**主が許された範囲の中**で起こっていること。  
私たちが立ち返るべきは、常に、全知全能の主のみ。
- **すべては主による**。ただ主を見上げる時、今を生きる意味が分かる。
- 人と人との関係性が崩されて残るのは、**わたしと主との関係のみ**。  
神との個人的関係の深まりこそ、強く求められていると覚えよう。
- **ひたすら主に聴きつつ**、聖書を学び、主を知っていこう。
- 変わらない教会時代の福音宣教の使命。果たす道も与えられている。  
今できることに力を注げばいい。**危機が不信仰をそぎ落とす**。

## 【新約聖書にも記されたサムエルの働き】

■偉大な信仰者の一人と数えられる

ヘブル 11:32 これ以上、何を言いましょうか。もし、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル、預言者たちについても語れば、時間が足りないでしょう。

■主の救いと教会時代をも告げた預言者の一人。

使3:24 また、サムエルをはじめ、彼に続いて語った預言者たちもみな、今の時について告げ知らせました。

➡サムエルもまた、女の子孫、モーセのような預言者として来られ、全民族を祝福するイスラエルのメシアを待ち望んでいた。

## 【信仰者の使命を身に帯びよう】

- 混迷を深めるリーダーを反面教師に教えられる。
  - ➡ はるかな先のビジョンを確かに持つ人ほど、現実の中で、重大な決定をなすことができる。
- サムエルは、律法から主の計画を学び、主の救いを待望していた。
  - ➡ 将来の確信こそが、厳しい現実の中で、士師サムエルを支えた。
- 私の罪のために十字架にかけられ、復活された主イエスは、王の王、裁き主として帰ってこられる。時代の最後の裁きの前に、信じるものすべてを御許に上げてくださる。
- 神のビジョンを胸に刻み、与えられた使命に今日も生きよう。人々に福音を宣言しよう。神の計画を伝えよう。



「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

混沌(こんとん)の中、人々の不安(ふあん)は増(ま)しています。

深(ふか)まる闇(やみ)の中、主の平安(へいあん)で

この身を満(み)たしてください。

将来(しょうらい)の約束(やくそく)を胸(むね)にきざみ、

確信(かくしん)をもって 福音(ふくいん)を告(つ)げる者として、

ここから遣(つか)わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」